



芦安中学校だより

第 11 号

校長 大石 浩雄

2025. 10. 3

昼間の暑さも少しずつ解消され、秋らしい日が多くなりました。秋は実りの季節といわれます。作物だけでなく生徒にとってもこれまでの学びの成果が実感できる季節にしたいと思います。

☆芦安ふれあい運動会

9月27日(土)に芦安小中学校の児童生徒・保護者と地域住民が集まり芦安ふれあい運動会が実施されました。今年は暑さが残り、熱中症などが心配されましたが、当日はさわやかな気温の中で競技を行うことができました。

開会式とはじめの体操

プログラムの最初は開会式とはじめの体操でした。地域の方や保護者に見守られながら児童生徒の入場や優勝旗の返還、誓いの言葉などが行われました。児童生徒の入場をする姿や話を聞こうとする姿勢、児童生徒の言葉等から「運動会を頑張ろう」といった気持ちを感じ取っていただけたのではないかと思います。

魅せろ！親子の絆(親子競技)

2番目は児童生徒と保護者と協力して行う種目でした。中学生くらいになると親と一緒にすることを「恥ずかしい」と思うこともあるかもしれませんが、どの生徒も競技名の通りしっかりと親子の絆を見せてくれました。

オープン玉入れ・玉入れ

3番目は玉入れです。この種目では、はじめに地域の方と保護者、児童生徒が一緒に行うオープン競技の部と児童生徒だけで行う得点競技の部がありました。オープン競技



児童生徒代表による誓いの言葉



スプーンで玉運び



高いほうの籠は難しいですね

の部では、大人と子供が一緒になってかごをねらって玉を入れ、結果を聞いて一緒に喜ぶことができていました。子供にとって親以外の大人との交流を通して学ぶことがきつとあったと思います。

中学生による全校チャレンジ(長縄跳び)

次は中学生全員によるチャレンジ種目。生徒会を中心に話し合い昨年までと違う内容にした種目です。生徒達の中で、自分たちが目標に向けてがんばる姿を地域や保護者に見てもらおうと考えたものです。1分30秒という規定時間、連続して縄跳びを続けるのは思いのほか大変なもののですが、引っかかってしまっても途中であきらめたりやめたりすることなく、みんなで最後までできたところがよかったと思います。また、中学生がチャレンジをしているときに多くの人が大きな声で応援してくれました。がんばっていると応援してくれる人がいることを体験したことは、生徒にとってすばらしいものだったのではないかと思います。

二人三脚と宝ひろい

中学生にとって二人三脚は、縄跳びで疲れたところでの連続競技で大変だったかもしれませんが、しっかりと小学生をリードする姿が見られました。その後の宝ひろいでは、来年度小学校入学予定者の元気な姿と小学生が地域の高齢者とペアで歩く姿を見ることができました。

綱引き

はじめに大人の綱引き、それが終わってから児童生徒の綱引きを行いました。今年度は大人の綱引きの様子を子供に近くで観戦してもらいながら応援してもらおうと



低い籠にはたくさん入りました



バッチリそろっています！



声と気持ちをそろえて



応援も一生懸命でした

計画をしました。綱引きに参加して下さった大人の方に子どもの声援は届いたでしょうか。

児童生徒の綱引きも、大人に引けを取らない気持ちの入った戦いとなりました。号砲係として近くで見ている児童生徒の必死さが伝わってきました。

芦安音頭

運動会の参加者全員がトラックにそって輪になり芦安音頭を踊りました。曲が終わったときに自然と拍手が沸き起こったところに一体感を感じました。

小学生の一輪車演技・ふれあい一輪車

小学生が低・中・高学年と別れそれぞれの曲に合わせて一輪車に乗って演技をしてくれました。私は一輪車に乗ったことはありませんが、おそらく簡単なものではないと思います。日頃からの積み重ねが感じられる演技でした。ふれあい一輪車は一輪車に乗れる大人と子供が声を掛け合いながら一緒にコースをまわる様子が印象的でした。

縦割りリレー

最後の競技は児童生徒全員が参加するリレーです。小学1年生から順番にバトンをつなぎアンカーは中学3年生が務めました。最後まで全力でバトンをつなぐ、仲間を大声で応援する姿が見られました。

閉会式

競技がすべて終わり、閉会式が行われました。児童生徒は、疲れていても開会式同様話を聞く姿勢を持つことができました。感想発表では中学生の代表として金川さんが話をしてくれました。聞いていて頑張れた実感があつたのだらうと感じられました。

最後に

児童生徒、保護者、地域住民が一堂に会する運動会は、芦安小中学校の特色といえます。この特色を通して児童生徒は家族以外の大人と関係性を学ぶことができたと思います。こうした行事ができるのも多くの保護者地域の方の支えがあってこそだと思います。ご協力いただいたみなさまにあらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。



みんなの見本になりました



声をそろえてスタート



全力を尽くします



赤白同点で両チーム優勝

☆ふれあい運動会を終えて

2学期が始まってから約1か月、児童生徒が主体的に活動できるようにと多くの先生方が工夫を重ねている様子を見ました。その成果でしょうか、今年は運動会で中学生がしっかりと小学生をリードしてくれている、一生懸命にやろうとしている様子が見えたといった感想をいくつもいただきました。いろいろな気持ちを抱えながらも、それを乗り越えがんばる姿を見せた生徒を評価していただきとてもうれしく思いました。同時に生徒のがんばりの下地作りをしてくれた先生方の努力も評価してもらえたようで校長としてとてもうれしく思いました。



縄跳びが終わった瞬間
自然とみんなが集まって
喜ぶことができました

☆未来の科学者訪問セミナー

10月1日(水)の午後、山梨大学大学院の綿打敏司教授と大学院生2名に來校していただき、科学の面白さや不思議さを体験して興味を持ってもらうことを目的に「未来の科学者訪問セミナー」を実施しました。

セミナーの主な内容は、極低温の世界でおきる現象を、液体窒素を利用した実験を通して知っていくというものでした。はじめは講師に遠慮しがちだった生徒でしたが、時間が進むにつれ好奇心が増したようで、自分から実験に手を出すようになり、不思議な現象に思わず声が出るような場面もありました。

今回取り上げられた実験の多くは、渦電流や超電導など高校の物理や大学レベルの内容を含むものでした。ただ、理屈はわからなくてもいいという前提で行ったので、生徒はリラックスして楽しめたようでした。理屈がわかった、理解ができたという学びも大切ですが、それ以前に興味関心を持つことが大切とあらためて感じるセミナーでした。



液体窒素の中に風船を入ると・・・



どうしてアルミ管の球は
ゆっくり落ちるのだろう？



磁石が空中に
浮いている？